平成26年度病害虫発生予報第5号（8月予報）

＜今月のコラム＞　・マンゴーにおける収穫後の病害虫防除対策について
・台風の発生と沖縄への接近について

＜お　知　ら　せ＞　イネヨトウの性フェロモントラップへの誘殺数の推移について以下URLに掲載しています。
http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojo/documents/h25-ineyo.html

今月のトピックス

イネヨトウ　（さとうきび）
学名：*Sesamia inferens*

イネヨトウが加害するイネ科植物


ナンゴクワセオバナ（ススキ）


ネピアグラス


ソルガム（ソルゴー）


トウモロコシ


ツノアイアシ


ギニアグラス


ローズグラス


オヒシバ

その他の加害イネ科植物：タチスズメノヒエ、ベチベル、ザラツキエノコロ、メヒシバ

生態と被害

沖縄では年6～7世代を重ね、周年発生する。1雌当たり400～700卵を産卵（25℃条件下）し、ふ化幼虫は集団で葉鞘内を食害後、2～3齢になると分散し茎に食入する。幼虫は6～7齢になり、茎や葉鞘内で繭を作り蛹化する。

さとうきびでは、生育初期に芯枯れを生じさせ、生育後期では台風等による折損や赤腐病の発生を助長するが、生育後期には芯枯れが生じにくいため、被害が見えにくい。

圃場内および周辺部のイネ科雑草はイネヨトウの発生源となるため、植付後と培土時に土壌表面処理剤等を処理し植物体が大きくなる前に防除する。法面のイネ科植物も可能な限り除去することが望ましい。

http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojo/index.html

平成26年7月25日
沖縄県病害虫防除技術センター